雜　報

大東亞戰爭

昭和16年12月8日朝「ラヂオ」ハ臨時「ニュース」ヲ放送シ. 我ガ國ガ西大平洋上ニ於テ英米ト戰爭狀態ニ入ツタコトヲ告ゲタ。來ルベキ時ガ遂ニ來タ。一億國民ノ誰モガ今日アルヲ覺悟シテ居タ時ガ來タノデアル。我ガ傳研ニ於テモ當日午前10時正面玄關ニ一同參集シ. 三田村所長カラ一場ノ訓示ガアツタ。當日傳研講習會ノ卒業式ガ行ハレタノデアルガ. 一同食堂ニ參集シタ時. 渙發セラレタ宣戰ノ詔書ノ放送ガアリ. 今コソ滅私奉公. 國ニ殉ズル秋デアルト決心サセラレタ。

學術集談會

去ル12月18日(木曜)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレタ。演題ハ左記ノ通リデアル。

1. 「エクトロメリア」病毒ノ組織培養實驗
   金澤謙一
   中神清一
1. はぶ毒ヲ以テセル大動物免疫ニ關スル研究
   田中哲之助
   桑島謙夫
1. 百日咳「ワクチン」精製痘苗混合接種ニヨル百日咳ノ治療ニ就テ　矢追秀武
1. 葡萄狀球菌毒素ノ各種「アルデヒード」ニヨル「トキソイド」化ニ就テ　細谷省吾
   脇滋男
   林阿安
1. 「ヂフテリア」. 破傷風. 志賀赤痢菌毒素ノ「トキソイド」化ニ關スル研究(豫報)
   細谷省吾
   柳澤睦夫
   大谷喜櫻映
   松岡辰男
1. 土壤中ノ線蟲類ト生物トノ關係ニ就テ(綜說)　石井信太郎

學友會へ寄附

一金12圓11錢也　桑島謙夫君
一金33圓45錢也　寺岡辰君
一金22圓17錢也　中村敬三君
　　蓑茂上君
　　大塚信哉君
一金167圓63錢也　瀧澤道夫君
一金7圓39錢也　鐵本總吾君

人事移動報告

月日	辭令	官職	氏名
12. 5	研究生入學許可		山縣武人
12. 8	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		大河原周
〃	研究生退學ヲ命ス		大河原周
12. 16	任傳染病研究所技手給八級俸		森藤靖夫
〃	任傳染病研究所技手給九級俸		富樫實
			宮村守人
			藤田三夫
			廣橋誠之
			土谷忠
			脇滋男
			美澄義明
			安江安宜
12. 16	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		森藤靖夫
			富樫實
			宮村守人
			藤田三夫
			廣橋誠之
			土谷忠
			脇滋男
			美澄義明
			安江安宜
12. 16	自今手當1ヶ月金45圓給與	囑託	田中英夫
		同	青木利彦
12. 16	自今手當1ヶ月金45圓給與	囑託	內田達次
		同	江藤武夫
		同	黃當時
	右3名「科學研究費」支辨		
12. 16	從來「委任經理」支辨ノ處「科學研究費」支辨トナル	囑託	平山毅
12. 24	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金45圓給與		山名月中

実験医学雑誌 26巻 p214 1942年
(2号)
26巻 214 1942

雜　報

學術集談會

去ル1月22日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。廣ク知識ヲ求メル意味ニ於テコノタビ柴田桂太先生ニ特別講演ヲオ願ヒスルコトニイタシマシタトコロ，先生ガ御快諾下サイマシタガ當日公用ノタメ支障ヘガ生ジ田澤氏ガ代演サレルコトニナツタ。蛋白ノ構造ニツイテ日頃ノ蘊蓄ヲ傾ケラレ，我々ノ益スルトコロ大デアツタ。當日ノ演題ハ次ノヤウデアツタ。

尚バイエル社提供ノ化學療法ノ映畫ハ戰時下ノ友邦獨逸ノ研究狀況ヲ知ルニ充分ナモノデアツタ。

1. 初生兒剝脫性皮膚炎(4例)並ニ膿痂疹ヨリ分離セル葡萄狀球菌ノ毒素產生能及ビ生物學的性狀　二神由紀彥君
2. 「サルモネラ」屬菌體抽出物質ノ免疫學的研究　高田昇造君
3. 「マンニット」非分解赤痢菌(特ニ「シュミッ」菌)ノ細菌血清學的研究　遠藤博君
4. 多價蛇毒血清製造ノ研究(第1報)所謂出血毒ヲ主トセル本邦產蛇毒混合免疫ニ就テ　田中哲之助君
5. モロネイテスト陽性者ニ於ケル「ヂフテリア」豫防注射ニ就テ　細谷省吾君　林阿安君　渡邊侃君　中村精子君

特別講演

1. 絹絲「フイブロイン」ノ構造ニ就テ　柴田桂太君　田澤康夫君

附　3時半ヨリバイエル社提供映畫「細菌性感染ノ化學療法」上映

學友會ヘ寄附

金67圓16錢也　遠藤博君

人事異動報告

昭和17. 1. 31現在

月日	摘要	官職	氏名
12.27	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金60圓給與		山下操
1. 6	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金45圓給與(文部省科學研究費支辨)		大薗卓
			大島欣二
			鈴木祥一郎
			早野正巳
			目黑庸雄
			石川義一
1. 6	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		長岡通夫
			佐藤保惠
			小峰績
			近藤市雄
1. 6	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金45圓給與(科學研究費支辨)		林喬義
1. 8	研究生入學許可		櫻田卓世
1.19	依願免本官	技手	安江安宣
1.20	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		大島欣二
			早野正巳
1.20	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		佐藤保惠
			小峰績
			林喬義
1.22	依願免本官	技手	田中繼雄
1.28	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金45圓給與(科學研究費支辨)		伊藤盛也
1.31	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金55圓給與(科學研究費支辨)		佐伯濟
1.31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		石川義一

26巻 (3号) 1942

用ヒタル病毒株ハソノ純系ナルヲ證明スルタメニ必要ニ應ジ最初ニ調製シタル免疫血清ヲ以テ中和力測定試驗ヲ施シテ不測ノ病毒變遷ヲ警戒シタノハ勿論デアル。

雜 報

春秋會歡送會

去ル2月19日(木)午後4時ヨリ本所地階食堂ニ於テ三田村會長,田宮副會長司會ノモトニ左記諸氏ノ春秋會歡送會ガ催サレタ。歡送ハ入江美輝,增山芳藏,高津敬太郎,鈴木光一,照屋建六,乃萬三郎,菊池常雄ノ諸氏デアツタガ就中菊池サンハ傳研移管當時カラノ長老デアリ,ソノ恩ヒ出話ハ仲々面白カツタ。熱帶醫學研究所ニ赴任サレル由デアルガ,ソノ期待サレルトコロ大デアリ、御健康ヲ祈リマス。マタ大正13年以來綠ノ下ノ力持チヲシテ傳研ノ機械設備ニオ盡シニナツタ增山サンノ御話モ面白カツタ。以上ノ皆サンガ多年傳研ノ爲メニオ盡シニナツタ御努力ニ對シ深謝スルト共ニ將來ノ御發展ヲオ祈リスル次第デス。

歡迎ハ恭藤靖夫,栗林久之輔ノ兩君デスガ共ニ大東亞建設ノ爲メ多年中支ノ戰野ニ御活躍ニナリ目出度凱旋サレタ方デス。ソノ勞苦ヲ深謝致シマス。

警防團ノ演習

英米ニ宣戰ヲ布告シテカラ2ケ月餘,ソノ間ハワイ空襲,マニラ陷落,香港我ガ手ニ歸シ,シンガポールノ敵ハ我ニ無條件降伏ヲ申シ出タ。シカシ戰ヒハコレカラデアル。勝ツテ兜ノ緒ヲ締メヨ。去ル2月21日午後1時ヨリ高輪警防團ノ防火演習ガアリ,當所ハ特設防護團トシテ之ニ參加シ訓練ヲ受ケタ。

學術集談會

去ル2月19日(木)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレタ。演題ハ左記ノ通リデアツタ。大橋君ハ目下某要務ニオ就キニナリ御不在ノタメ,小島教授ガ代演サレタ。

1. 發疹熱(發疹「チフス」ニ關スル研究 (第1報) 金澤謙一君 留岡展男君
2. 流感病毒ノ研究,孵化鷄卵內培養ニ就テ 大橋久治君
3. 流行性黃疸(流行性肝炎)(綜說) 北岡正見君

學友會ヘ寄附

金70圓33錢也 荒川哲君
金245圓88錢也 內田昌男君

人事異動報告

(昭和17.3.19現在)

月日	摘要	官職	氏名
1.28	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		菊池常雄
1.31	依願解雇		藤井良德
			同 弓削毅
			同 高間基
2.2	陞敍高等官2等	教授	長谷川秀治
2.6	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		齋藤弘德
2.21	傳染病研究所雇ヲ命シ月給金40圓給與		西宮恒
2.21	傳染病研究所雇ヲ命シ月給金40圓給與「文部省科學研究費支辨		平松正子
2.21	傳染病研究所業務ヲ囑託ス「學術振興會研究費支辨」		齋藤靜江
2.21	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		和田裕
2.25	傳染病研究所雇ヲ命シ月給金45圓給與		木村京子
2.28	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		岩田昌一
2.28	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ケ月金45圓給與		本多正明
2.28	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		伊藤盛也
2.28	研究生退學許可		八辻瑛
3.2	依願免本官	技手	新井三九雄
3.2	傳染病研究所業務ヲ囑託ス(高等官待遇)	警視廳技師	大坪五也
3.7	大阪府下ヘ出張ヲ命ス	教授	宮川米次
	學術上取調ノ爲	自3月7日 至3月9日	3日間

実験医学雑誌 26巻. 4号 (4号) 388ページ
26巻 387

雜　　報

傳研ノ出火

去ル3月4日午後10時半過ギ傳研構内ノ「バラック一棟（舊小動物小屋）ガ燒失シタ。警戒管制發令中此ノ失態ヲ演ジ．多クノ人々ニ御迷惑ヲ オ掛ケシテ大イニ恐縮シタ 次第デアル。 失火ト同時ニ警防團．消防及ビ傳研職員ノ盡力ニ依リ．他ニ累ヲ及ボサズニスンダコト．人馬ニ被害ノ無カツタコトハ モツテノ幸デアツタ。

學　　會

今年ハ第11回日本醫學會總會ヲ開ク年ニ當ルガ．學會ノ開催ハ學制ノ改革ト共ニ繰リ上ゲラレ3月26日ヨリ30日ニ亘リ東京ニ於テ催サレタ。我ガ傳研カラモ各分野ニ亘リ（微生物學會．傳染病學會．結核病學會．病理學會寄生蟲學會）演題ヲヒツサゲテ多數コレニ參加シ．日頃ノ研究ノ結品ヲ發表シタ。戰時下デアルニ拘ラズ無事ニ學會ヲ終了シ得タコトハ御稜威ノ下皇軍將兵ノ御蔭デアルト深謝スル次第デアル。

學友會懇親會

第11回日本醫學會ヲ機會ニ御上京ニナツタ地方會員ト舊交ヲ溫メルタメ．3月26日丸ノ内會館ニ於テ傳研學友會懇親會ガ催サレタ。今度ノ會ハ出席會員數ニ於テ未曾有ノ盛會デアツタ。長谷川教授司會ノモトニ滿洲國ノ阿部博士．阪大ノ今村教授．北海道ノ中村豐教授ヲ始メ多數ノ方々ノ「テーブルスピーチ」ガアリ．終ツテ記念撮影ヲ行ヒ．御希望ノ方々ニ御送リスルコトニシタ。今度阪大ノ谷口教授ガ御病氣ノタメ御上京ニナラナカツタコトハ一抹ノ淋シサヲ與ヘタ。

學術集談會

去ル3月19日（木）午後3時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレタ。演題ハ左記ノ通リデアツタ。今月ノ綜説ハ．番ニ當ツテ居タ川喜田所員ガ折リ惡シク御病氣ニナラレタタメ．中止シタ。

1. 肺炎球菌ニ關スル研究

其ノ1．肺炎患者ヨリ分離セル菌型ニ就テ

入田貞義君
李開榜君
小林正武君

1. 流感毒ノ研究．流感病毒ノ硝子器内培養ニ關スル知見補遺

福見秀雄君

1. 再歸熱スピロヘータ」ニ對スル「スルフ*ンアミド劑ノ效果ニ就テ

石井信太郎君
木村京子君

人事異動報告

昭和17年4月9日現在

月	日	摘　要	官職	氏　名
3	10	研究生繼續許可		村田恭造
3	18	研究生入學許可		外山昂志
3	31	研究生退學		佐竹隼人
4	1	研究生入學許可		中村康平

実験医学雑誌 26巻 (4号) 388ページ
26巻 38

雜　　報

傳研ノ出火

去ル3月4日午後10時半過ギ傳研構内ノ「バラック一棟（舊小動物小屋）ガ燒失シタ。警戒管制發令中此ノ失態ヲ演ジ．多クノ人々ニ御迷惑ヲ オ掛ケシテ大イニ恐縮シタ 次第デアル。 失火ト同時ニ警防團．消防及ビ傳研職員ノ盡力ニ依リ．他ニ累ヲ 及ボサズニスンダコト．人馬ニ被害ノ無カツタコトハ モツテノ幸デアツタ。

學　　會

今年ハ第11回日本醫學會總會ヲ開ク年ニ當ルガ．學會ノ開催ハ學制ノ改革ト共ニ繰リ上ゲラレ3月26日ヨリ30日ニ亘リ東京ニ於テ催サレタ。我ガ傳研オラモ各分野ニ亘リ（微生物學會．傳染病學會．結核病學會．病理學會寄生蟲學會）演題ヲヒツサゲテ多數コレニ參加シ．日頃ノ研究ノ結晶ヲ發表シタ。戰時下デアルニ拘ラズ無事ニ學會ヲ終了シ得タコトハ御稜威ノ下皇軍將兵ノ御蔭デアルト深謝スル次第デアル。

學友會懇親會

第11回日本醫學會ヲ機會ニ御上京ニナツタ地方會員ト舊交ヲ溫メルタメ．3月26日丸ノ内會館ニ於テ傳研學友會懇親會ガ催サレタ。今度ノ會ハ出席會員數ニ於テ未曾有ノ盛會デアツタ。長谷川教授司會ノモトニ滿洲國ノ阿部博士．阪大ノ今村教授．北海道ノ中村豐教授ヲ始メ多數ノ方々ノ「テーブルスピーチ」ガアリ．終ツテ記念撮影ヲ行ヒ．御希望ノ方々ニ御送リスルコトニシタ。今度阪大ノ谷口教授ガ御病氣ノタメ御上京ニナラナカツタコトハ一抹ノ淋シサヲ與ヘタ。

學術集談會

去ル3月19日（木）午後3時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレタ。演題ハ左記ノ通リデアツタ。今月ノ綜説ハ．番ニ當ツテ居タ川喜田所員ガ折リ惡シク御病氣ニナラレタタメ．中止シタ。

1. 肺炎球菌ニ關スル研究

　其ノ1．肺炎患者ヨリ分離セル菌型ニ就テ

　　入田貞義君

　　李開榜君

　　小林正武君

1. 流感毒ノ研究．流感病毒ノ硝子器内培養ニ關スル知見補遺

　　福見秀雄君

1. 再歸熱スピロヘータ」ニ對スル「スルフォンアミド劑ノ效果ニ就テ

　　石井信太郎君

　　木村京子君

人事異動報告

昭和17年4月9日現在

月日	摘要	官職	氏名
3．10	研究生繼續許可		村田恭造
3．18	研究生入學許可		外山昂志
3．31	研究生退學		佐竹隼人
4．1	研究生入學許可		中村康平

26巻（5号） 1942

雜 報

第13回日本農學會大會

去ル4月4日ヨリ6日ニ亘リ第16回日本農學會大會ガ東京ニ於テ開催サレ．當研究所カラモ遠山技師及ビ山極技師等ハ多年ノ研究シタ成績ヲ發表シタ。

敵機襲來

去ル4月18日ハジメテ敵機ガ帝都ニ現レタ。三田村所長以下警防團員ハ鐵兜ノ出デ立チ物々シク警備ニツイタガ專研ハ何等ノ被害ヲモ蒙ラナカツタ。

學術集談會

去ル4月16日(木)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。此ノ度ハ志賀直教授ニ御依頼シ．多年御研究ノ蛋白構造ニ就テノ特別講演ヲオ願ヒスルコトニシタ。ソノ途ノ專門家デナイ者ニモ理解シ易イヤウニ極メテ明快ニ説明サレ裨益スル所大デアツタ。當日ノ演題ハ次ノ通リデアツタ。

1．好氣的解糖中ニ於ケル不反應性電極ノ電位變化(第3報)「トリプトフアン」ノ好氣的分解中ノ電位時間曲線

福見秀雄君

2．佛印產及ビ廣東產こぶら毒ト臺灣こぶら毒トノ免疫學的比較研究

田中哲之助君
三宅忠雄君
大原良之君

3．狂犬病病毒ノ孵化鷄卵內培養(第1報)

中神清一君
留岡展男君

4．馬ノ「セント・ルイス腦炎病毒ニ對スル感受性ニツイテ

北岡正見君
久池井忠男君

5．2-メチル-3, 8-ヂオキシナフトヒノン」ノ合成

淺野三千三君
長谷純一君

特別講演

1．蛋白質ノ電氣化學的構造並ニ性狀

志賀直君

學友會へ寄附

金7圓91錢也	福見秀雄君
金10圓73錢也	蛯名勝四郎君
金6圓40錢也	二神由紀彦君
金71圓54錢也	蓑茂上君
金25圓70錢也	米食秀雄君
金377圓01錢也	北野政次君
金26圓46錢也	江崎唯人君

人事異動報告

月	日	摘要	官職	氏名
4．	1	研究生繼續許可		高田昇造
4．	1	陞敍高等官一等	教授	小島三郎
4．	15	敍從四位	教授	小島三郎
4．	13	研究生繼續許可		柴山威則
4．	13	依願免本官	技手	米倉秀雄
4．	13	任傳染病研究所技手給九級俸		平山毅
				山名月中
				目黑庸雄
				鴨脚光增
4．	14	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		平山毅
				山名月中
				目黑庸雄
				鴨脚光增
4．	15	依願解囑	囑託	須賀井忠男
4．	21	依願解囑	囑託	東風睦之
4．	23	研究生入學許可		山口又治郎
4．	27	依願免本官	技手	森下哲夫

26巻 (6号) 1942

517—528

百部トイフ生藥ハ古來漢方デ衣虱ト毛虱トノ孰レニ對シテモ有效ナリトセラレタモノデアル。衣虱ニツイテハ Wang ガ報告シテキルノデ，著者ハ毛虱ニツキソノ效果ヲ檢シタ。毛虱ハ本劑ノ50%Alcohol 溶液ヲ3分間作用サセルコトニヨツテ死滅スル．著者自身ノ人體實驗ニ於テモ效果適確デ．皮膚ニ對シテモ刺戟性ガ無イ。支那ニ於テハ廉價ニ入手シ得ル。（鴨脚）

雜　報

學術集談會

去ル5月21日(木)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ．去ル3月下旬靜岡縣新居町ヲ中心トシテ起ツタ例ノ淺蜊中毒事件ニツイテ臨牀方面ノ報告ニ引キ續キ細菌・病理ノ方面カラモ追加ガアリ盛會デアツタ。今度ノ研究ニ病理班ガ行動ヲ共ニシタコトハ本中毒ノ本態ヲ識ル上ニ寄與スルコト大デアツタ。

1. 「ズルホンアミド」劑ノ化學療法的效果ニ及ボス各種「ビタミン」類ノ影響ニ就テ(第1報)　小泉　豐君
2. 葡萄狀球菌ノ變異ニ關スル研究(第1報)　脇　滋男君
3. 靜岡縣新居町ニ於ケル淺蜊中毒患者ノ臨牀所見ニ就テ(第1報)
   米倉　秀雄君
   宗像　昇君
   森藤　靖夫君
   羽田　幸雄吉
   福井　覺君
   富樫　實君
4. 麻疹病毒ニ關スル研究(第1報)特ニ「マウス」ノ接種成績ニ就テ
   矢追　秀武君
   荒川　清二君
5. 「リフトバレー熱病原體ニ就テ(綜說)　長野　泰一君

學友會へ寄附

金17圓95錢也	大橋　久治君
金8圓57錢也	細谷　省吾君
金10圓80錢也	田中哲之助君
金12圓95錢也	笠原順一郎君
金42圓也	高橋義夫．田淵義丸君

人事異動報告

昭和17．6．13現在

發令月日	辭令	官職	氏名
5.14	任傳染病研究所技手給六級俸	臺灣總督府農業試驗所技手	莊保忠三郎
5.15	任熊本醫科大學助教授敍高等官七等	技手	金光　正次
5.20	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		元文伊一郎
5.30	任東京帝國大學助教授敍高等官五等	厚生科學研究所技師從六位	岡本　啓
	本俸八級俸下賜 補傳染病研究所所員 所員職務俸金參百五拾圓下賜	助教授	岡本　啓
5.30	任臺灣總督府水產試驗所技師 敍高等官三等	技手	鐵本　總吾

26巻 (7号) 1942

the success in infecting Chinese hamsters with flagellates from naturally infected *P. chinensis* found in Tsingkiangpu, Chinese med. Jour. 1941. Vol. 60, No. 3, pp. 232—240.

Malaria ノアルトコロ必ズ *Anopheles* ガアルト云フノト同ジ意味ニ於テ，Kala-azar ノアルトコロ必ズ *Phlebotomus* ガアルト云フコトハ尙早計デアルケレドモ，Kala-azar ノ地理的分布ガ *Phlebotomus* ノ或種類ノソレト極メテヨク一致スルコトハ周知ノ事實デアル。揚子江ノ南ニ於テハ，浙江，江蘇，江西，廣東，廣西ノ諸省ニ於テ本病ノ報告ガアツタガ，何レモ散發的デアリ，一方 *Phlebotomus chinensis* ハ是等ノ地方ニ於テハ未ダ發見セラレタタメシガナイ。シカルニ著者等ハ雲南省ニ於テ *P. chinensis* ヲ發見シタノデアル。コノ事實ハ，1935年 Boshamer ガ廣西省ノ南寧，桂平，武鳴ニ於テ土着ノ Kala-azar 症例ヲ認メ，1938年Schretzenmayr 等ガ廣東ニ於テ30例ノ土着症例ヲ報告シテキルコトト關聯シテ，廣東省ヤ廣西省ニモ *P. chinensis* ガ存在スルコトノ可能ナルヲ思ハシメル。*P. chinensis* 以外ノ *Phlebotomus* ハスデニ海南島ヤ南寧ニ於テ見出サレテキル。*P. chinensis* ハ5月ノ終ニ初メテ現レ，7月ノ半頃ニハスデニ殆ド姿ヲカクスノデ看逃サレ易イモノデアル。モシモ *P. chinensis* ガ南支ニ於テアマネク存スルモノナリトセバ，動搖セル國情ノモトニ多數ノ人々ガ北支カラ南支ヘ移動スル今日，南支ニ於テ新タナ Kala-azar 浸淫地ガデキテ來ハセヌカト考ヘラレル。尙著者ハ江蘇省ノ清江浦ニ於テ捕ヘタ *P. chinensis* ニ自然感染セル *Leishmania donovani* ノ鞭毛型ヲ田鼠ニ注射シテ感染セシメルコトニ成功シタコトヲ報告シテキル。

（鴨脚）

雜　報

傳染病研究所第43周年記念日記事

傳研第43周年記念式ハ6月1日午前10時ヨリ本所講堂ニ於テ下記ノ次第デ行ハレタ。

一．開　式
一．君ガ代ニ唱
一．宮城遙拜
一．出征軍人ニ對スル感謝並ニ戰歿將士慰靈ノタメ默禱
一．勤續者ニ賞狀及賞品授與
一．所長式辭
一．來賓祝辭　　宮島幹之助博士
　　二木謙三博士
一．閉　會

所長式辭及ビ來賓祝辭ハ本誌8月號ニ載錄サレル。今回ノ記念式ニ於テ勤續29年5ヶ月ノ工手長川名いと氏ハジメ當研究所ニ於テ長ク精勵サレタ（雇員以上ヲ除ク）下記ノ方々ノ表彰ガ行ハレタコトハマコトニ意義ノ深イコトデアツタ。

勤續25年以上	川名いと
同20年以上	渡邊清造 坪內くらく 岡崎イク 松澤善造 錦れん
同15年以上	本間繁枝 小林基一 佐藤イシ 仲村渠政德 堀部兼彌 高井ちゑ 大橋靜江 片岡秀敏 田中重造 酒卷常吉 渡邊タキ
同10年以上	宮本ふく 奧野厚次郎 加藤文平 若林逸周 奧野テルし 河野よしき 磯崎トキ 山下梅野 大熊彌藏

石川富義
松山萬之輔
今井八千代
福澤善吉
南雲カネ

式後正面玄關前ニテ記念撮影ヲ行ヒ，引續キ食堂ニテ午餐會ヲ催シタ。席上，田宮所員ノ指名ニテ石原喜久太郎，內野仙一，川村麟也，城井尙義，小林六造ノ諸氏ノ卓上演說ガアリ(本誌8月號ニ揭載)最後ニ二木謙三先生ノ發聲ニテ傳染病研究所ノ萬歲ヲ三唱シ和氣藹々裡ニ閉會シタ。

ナホ當日ハ會議室竝ビニ二三ノ研究室ニ於テ展覽品ノ陳列ヲ行ヒ一般ノ參觀ニ供シタ。中デ大東亞共榮圈ノ建設ニ當ツテ1日モ忽セニスルコトノデキナイ南方醫學ニ關聯スル參考資料，標本ノ展覽(「マラリア」，毒蛇標本等)，或ハ最近靜岡縣濱松附近ニ多發シタあさり中毒患者ニ關スル本所研究班(附屬醫院，第4，第5研究部，ソノ他)ノ研究業績竝ビニ寫眞標本等ノ供覽ハ時節ガラ人ノ注目ヲ集メタ。

當日ノ來賓芳名ハ次ノ通リデアル。(五十音順，敬稱略)。

石原喜久太郎	內野仙一	川村麟也
川崎近太郎	葛西勝彌	城井尙義
工藤正四郎	小林六造	清水文彥
徐昌道	高橋忠	瀧田順吾
林春雄	肥田音市	藤田秋治
二木謙三	松山陸郎	宮島幹之助
村上俊江	山田てい(故山田信一郎博士未亡人)	
	渡邊義政	

學術集談會

去ル6月18日(木曜日)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。當日ノ演題ハ次ノ通リデアツタ。例年ノ如ク7月及ビ8月ノ兩月ハ休ンデ9月カラ再ビ集談會ヲ催シマス。

1. 「ズルフォンアミド」劑ノ作用ニ對スル阻害物質竝ビニ賦活物質ニ關スル研究(第1報) 小泉豐
2. 「ビタミン」B_2ノ過敏症解除作用ニ就テ 矢追秀武，荒川清二
3. 葡萄狀球菌毒素ノ本態ニ關スル研究(其ノ1) 葡毒ニ對スル「トリプシン」ノ影響ニ就テ 細谷省吾，脇滋男
4. 類鼻疽(めりおいどーじす)ニ就テ(綜說) 野邊地慶三

學友會へ寄附

金13圓26錢也	久保田久君
金6圓43錢也	永井吉郎君，川島四郎君
金66圓10錢也	永井吉郎君
金24圓46錢也	永井吉郎君，中村精子君，久保田久君
金76圓70錢也	小川透君
金18圓49錢也	川喜田愛郎君，田崎忠勝君
金19圓70錢也	蛯名勝四郎君

人事異動報告

昭和17年7月21日現在

發令月日	辭令	官職	氏名
6.9	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ケ月金四拾五圓給與		大西繁
6.17	任傳染病研究所技手給九級俸		安江安宣
6.22	任傳染病研究所事務官敍高等官七等	東京帝國大學書記勳七等	鎌田勇五郎
6.22	依願免本官	事務官	檜山兼次郎
6.24	自今手當一ケ月金五拾圓給與(科學研究費支辨)	囑託	齋藤靜枝
6.26	大阪府下ヘ出張ヲ命ス(學術上取調ノ爲)自6月28日至7月1日4日間	教授	三田村篤志郎
7.15	岡山縣下ヘ出張ヲ命ス(學術上取調ノ爲)自7月18日至8月10日24日間	教授	三田村篤志郎
7.15	岡山縣下ヘ出張ヲ命ス(學術上取調ノ爲)自7月18日至8月7日21日間	助教授	北岡正見

第26卷第5號栃木武營原著「大原箕田菌ノ變異ニ關スル研究」(第1報)ノ正誤表

ページ	行	誤	正
447	表下1	$+-_1$	$-+_1$
448	下14	120°C 20	120°C 20′
455	第2表	701 6.11	70L. 6.1L.
456	下3	常水 11	常水 1L.
456	下2	81	8L.
456	下2	11	1L.
457	第7表	熱浸液 81	熱浸液 8L.
457	第7表	11(pH 5.6)	1L. (pH 5.6)
457	第7表	Aqua 11	Aqua 1L.
457	第7表	消化液 11	消化液 1L.
457	下6	蒸餾水 11	蒸餾水 1L.
457	下5	消化液 11	消化液 1L

26巻（8号）　1942年

傳染病研究所創立第43回記念式典

（昭和17年6月1日）

式　　辭　　傳染病研究所長　三田村　篤志郎

本日茲に傳染病研究所創立43周年を記念する會を催すことを得まするのは，私共の大いなる喜びでございます。去る12月8日米英に對する宣戰の大詔を拜しましてより茲に半歲，皇軍の陸に海に又空に於ける赫々たる戰果に依りまして，國威が日に月に揚りつゝありまするこゝは，洵に慶賀の至に堪へない所でございます。茲に皇軍將士の忠誠勇武に對し，限りない感謝と感激の意を表しまするこゝ共に，戰歿將士の英靈に對し，深甚なる同情と哀悼の誠を致す次第でございます。

本所は過去一箇年間に更に新しき若干の若い人々を戰場に送出しました。この機會に於きまして，本所から出征されました幾多の將士が，各々その責務を果されまするこゝ共に，武運益々長久ならんこゝを切願致します。

今日この記念會を催すに當りまして，當所と關係の深い諸先生，諸先輩竝に各位の多數の御參集を辱う致しましたこゝは，本所の無上の光榮と致す處でございまして，茲に厚く御禮を申上げる次第でございます。

本所創立以來43年の歷史を顧みますれば，本所が今日ありまするのは，偏に先進諸先生竝に諸先輩の努力精進の賜でありまして，本日の記念會に於きまして，それらの先進者に對し，尊敬と感謝の念を新たに致す次第でございます。私は過去を偲びまして，茲に二三の物語を致したいと存じます。

最近志賀潔先生は「癩研究の十有餘年」といふ洵に興味深い一文を發表されまして，その中に北里先生が明治32年の頃即ち本所の創立當時から細菌の培養及び動物實驗に苦心をされた事實に言及され，最後に次の言葉を記されて居ります。即ち「或る日北里先生が述懷されたことがある。癩の研究は實に困難だ，隨分骨を折つたが遂に成功しなかつたと。あの剛腹の先生も癩研究に匙を投げられた。併し北里先生が細菌學者として癩菌の動物實驗に著手された事實を世に傳へ，これを文獻に留めて置くこゝは，私共の義務であると信じます。」といふのであります。本研究所に於ける最近の癩の動物實驗は，幸ひにして若干の成功を收めつゝあると信ずるのでありまするが，このやうな學問的の一つの進歩の階段をつくる爲には，北里，志賀兩先生の本所創立以來の努力がその有力な基礎をなして居ることを知るのであります。又本所移管後の初年に於きまして，即ち大正5年から6年に掛けまして，重い病の爲に痩せ衰へられました青山先生が，重い足を引摺りながら，或は各室を巡回され，或は學術集談會に列席され，私共の研究を指導奬勵されましたこゝを，今感激と感謝を以て想起する次第でございます。

次に私は昨年8月16日，長與先生が御逝去になりました悲しむべき事實に就てお話を致さなければなりません。先生が大正8年6月から昭和9年3月に至る15年間，所長として本所の爲に御

盡瘁になりましたことは，諸君の御存じの通りであります。長與先生はその御在任中，本所は研究を以て生命となすべきことを强調され，又同時に身を以てその範を示されまして，北里，青山兩先生以來の本所の傳統に一層の光輝を添へられたのであります。先生は學者として唯一筋に先生御自身の仰しやいましたやうに採眞究理，眞を採り理を究むるの道を進まれたと共に，人としては正義と愛を二つの翼となし，公平無私を舵とする生涯を送られた方でありまして，我が傳染病研究所が今日ありまするのは，先生に俟つ所が洵に多いのであります。この度び先生を亡ひましたことは，私共のみならず國家に取つて大きい損失でありまして，洵に哀悼の念切なるものがありますと共に，本所に對する先生の御功績に對して，玆に衷心よりの感謝の意を表する次第でございます。

大東亞戰爭の進展と共に，本所に課せられた責任は益々重大化致しまして，この間に處しまして本所は一方製造業務の遂行に遺憾なきを期すると共に，他方本所の最大使命でありまする研究に大なる成果を擧げまするこは，中々容易ならぬ業でございます。併し私共はお互ひに心を協せ身を挺して，使命の達成に一路邁進致し，以て本所の傳統を護り，學問の向上の爲，又邦家の隆盛の爲に寄與致したいと期する次第でございます。これを以て御挨拶と致します。

祝　　辭

北里研究所副所長　宮島幹之助博士

私は北里研究所の副所長を勤めて居ります宮島であります。昔はやはりこの傳染病研究所に勤めて居つて研究に從事した一人でありますが，本日創立記念の式典を擧げられ，多數の長年の間勤續された方々に賞與をお與へになり，この意義深い式典に參列することを得ましたことは，私の最も喜ぶ處でありまして，昔を忘れない，又功勞のある人を表彰するといふこは，これは日本精神の現はれでありまして，私はこの意味に於て，最も本日のこの式典は意義の深いものがあると存ずるのであります。

明治25年に，只今もお話のありました北里先生がドイツから歸られまして，福澤先生の助けに依つてさゝやかな傳染病研究所を，御成門の傍の福澤先生の私有家屋に於てお始めになつたのでありますが，それが段々發展致しまして，芝の愛宕町の只今郵便局のありまする所に傳染病研究所といふものが立派に出來上つたのでありますが，その當時の有識階級の相當名のある方々が芝區民を煽動致し，傳染病を研究する場所がこの町の中に出來るといふこは危險千萬であるといふやうなことで反對運動を猛烈にやつたのであります。その當時北里先生は非常な惡戰苦鬪をされましたけれども，遂に研究所が出來上り，益々その事業は擴大し，他にありました血清藥院，痘苗製造所のこの二つの研究機關を併合し，この臺町の高燥なる土地に傳染病研究所といふものが移轉致したのであります。

爾來數年の間何事もなく吾々は研究に邁進致したのでありますが，突如として大隈內閣の時に移管問題といふものが起つて，北里先生はじめ吾々一同が辭職するの已むなきに至つたのであります。實は恨みを呑んでこの研究所を退却致したのであります，その後最初は文部次官の福原さんが

所長として創設の事務をやられ．次で青山先生．又．林博士．長與博士．宮川博士を經て今日の所長が御就任になり．益々この事業が盛大に赴き．國家の爲．又民衆の爲に偉大なる成績を擧げて居らるゝことは．御同慶の至りに堪へないのであります。

北里．青山兩先生は．既に久しい前におかくれになりまして．今更申しても甲斐ない事でありますが．昨年の秋不幸にも吾々の敬愛して居りました長與博士が病を得て殯れられまして．實に吾々は君を惜むの情切なるものあることは．此處に今更申上げるまでもない事でありますが．殊に私の最も遺憾に思つたのは．昨年長與博士が病牀に居られる時には．日本の將來はどうなるか．この暗澹たる氣持に國民全體が蔽はれて居つたのであります。然るに御承知の通り．昨年12月8日．米英に對する宣戰の大詔が渙發せられ．瞬く間に我が勇武なる陸海空の三軍が非常な活躍をされ．或はハワイの眞珠灣に．或はマレー半島に．或は最近には珊瑚海の海戰に於て．米英の武力を瞬く中に打摧いたのでありまして．この赫々たる戰果を長與君が聞くことが出來ずに逝かれたことは．益々私は惜むのであります。少しでも聞かせたかつたと思ふのであります。

この大戰の結果と致しまして．今や我が國は非常な廣い地域に對して世話をする事に相成つたのでありまして．今後吾々國民は凡ゆる方面に於て戰後の經營に當らなければならぬのであります。僅か半歲の間に擧がりました戰果に依つて我が手に歸した各地方の先づ以て第一に傳染病なり或はその他の疾病なりに對して．日本の醫學者がこれから大いに努め．各地域に於ける住民の幸福を圖つてやらなければ相成らぬのであります。玆に於て吾々は一層の準備を致さなければならぬ．又覺悟を持たなければならぬ。この重大なる時期に於て．吾々は最早傳研だ北研だと言つて兄弟牆に鬩ぐの時代は相去つたのであります。吾々は共に相携へてこの時局に處すべく奮鬪努力致さなければならぬと思ふのであります。

曾て北里先生が申されました。人間は熱と誠を以て仕事を遂行すれば必ず成功するものであるといふことを吾々に敎へられましたが．今後吾々日本の學徒は熱と誠を以て．皇軍の手に收められた地域の諸民族を指導して幸福にしてやらなければ相成らぬのでありますが．それには先づ以て傳染病は無論のこと．この研究所は申すまでもなく．私共の居りまする北里研究所に於ても．お互ひに相提携して．しつかりとその準備を致し．外へ伸びなければならぬのであります。

かういふ時に際して所長にもお願ひ致して置きますが．吾々の方でも出來るだけ優れた人を選拔して外へ出しますから．どうかこちらからも選り拔きの人を出して戴きたい。昔日清戰爭の結果．清國が日本から敎育者を招いたときに．文部省がけち臭い根性から．要らなくなつたやうな人間を多く派遣して．その結果遂に支那が日本を侮り．到頭大戰爭が起つたやうな結果になりまして．吾々國民として昔の事を知つて居る者が考へるといふと．洵に殘念な事であります。卽ち日清戰爭の後立派な第一流の人間を送つて置いたならば．必ずやその結果といふものは．日支の間の親善を齎したであらうと思ふのであります。

今や我が日本帝國は東亞の盟主として．吾々日本民族は東亞諸民族の兄貴分として大いに導いて

行かなければならぬ時代であります。かういふ時にごうか傳染病研究所に於ても選り抜きの人を外へ出して戴きたい。要らなくなつた人間を外へ出すといふやうなことでは大變な間違ひになりますから。選り抜きの立派な人を送ることにして戴きたいと希望を申述ぶる次第でございます。又此處においでになる研究所のお若い諸君は。所長の命令一つで文句を言はずに何處へでも行くといふ覺悟を持つて戴きたいものであります。私共の研究所では甚だ獨裁政治のやうでありますけれども。選抜された人間は愚圖々々言はずに出掛けるといふことを方針に致して居るのであります。この點を特にお若い方々にお願ひして。今日の御祝ひの言葉に代へて置く次第であります。(拍手)

祝　辭　　二木謙三博士

私は長い間歴代の所長のお世話になり。今日この會に臨みますことは。洵に報恩の心持が溢れて居りますので。私は實に感謝をして居る。殊に只今長い間勤續せられた皆樣が表彰狀をお貰ひになつた。澤山な仕事が此處から出ましたが。皆その方々の力であるといふことを私は本當に感謝を致して居ります。それで43年になつて何がお目出たいか。43年なるが故にお目出たいのではない。北里博士がこの所を建てられた。その開所式が如何にお目出たかつたか。開所は致したが。1年續くか。これが寧ろ博士の心配だつた。それが1周年の時は又開所式以上お喜びであつた。2周年は尙ほ嬉しい。6周年。10周年は。かうなつて參りますと。成程20周年が40周年になり。43周年が——いや。これよりまだ50周年が。100周年がお目出たいのでありまして。今日はその道程の一楔。これは洵にお目出たいと存ずるのであります。而してその建物が存續したからお目出たいといふ理窟もない。その建物の中に立派な精神が流れてをつて。その精神が發揚して花となり實となつて出て來て。その實が如何にも國民の養ひになり。國家天下の益になるといふことがお目出たい。その精神の流れのもとは北里先生から出て居るのであります。この流れを繼ぎ行くことこそが所謂脈々として永遠に絶ゆることなき喜びであると思ふのであります。

偖て顧みると。昨年の今日であつたと思ひます。この席ではございません。あちらの食堂の席であつたかと思ひましたが。私は三つかの質問を皆樣のお若い方にといつて提供をした筈であります。それは年寄は忘れましても。あなた方若い方は記憶なさつて居ると思ふ。この年寄の頭でも殘つて居ることは何かといふと。傳染病研究所が斯くの如く榮えて居る。然るにも拘らず傳染病は少しも減らないのはどういふ譯か。かういふ質問や。ワクチンがワクチンがと机の上では效く筈ですが。實際はなぜかう效かないのであらうかといふやうなことを二つ三つ竝べたと思ふのであります。その回答を待ちに待つて——いやまだ1年しか經たないから。そんなにせつつくのは年寄のせいであらうと思ひますが。待ちに待つて居りましたところ。澤山な次々に出る所の新しい仕事の中に。又ぽつつと一つ出て參りましたことは。ビタミン缺乏といふことは傳染病の豫防や免疫やに影響するのだ。これを補給すると抵抗力が强くなつて。これを補給すると又免疫の注射の效果も非常に高まつて來るといふやうな仕事も現れたかと思ひます。餘り我が田に水を引くやうで。それは宜

くないかも知れませんけれども．いや年寄といふものはとかくさうなりたいものでございまして．我が田に引いて見るといふと．何十年か先に氣狂ひ年寄が出て．いや日本人は玄米を食ふべしなどといふ暴論を吐いたやうなことが．如何にも少しは役に立つたと思ふのであります。この機會にお目出たいといふ言葉を述べるが．併し若し間違へて．然らば日本國民全體にビタミン劑を注射するなんといふことを考へたら．是亦私は間違ひだと思ふのであります。いやさうはお考へになつては居りますまい。それは取出してさしたのではいかぬ。一生二度の植疱瘡でさへ行渡り洩れがあるやうなことでありますので．これを行渡り洩れのないやうにするのには注射といふやうな反自然の形で行かないで．本當の自然そのものゝ形で皆が玄米を召上るやうになつたら如何か．かう存じてお祝ひを申上げる次第であります。甚だ我田引水の論ですけれども．尚ほ澤山の疑問があります。又他日申上げます。今日はお祝ひの言葉だけを申上げます。(拍手)

傳染病研究所創立記念日午餐會席上演說

挨　拶

三田村篤志郎氏

一寸御挨拶申上げます。今日43周年の記念會を催しました所．諸先生．諸先輩並に各位の多數の方々が洵に御多忙中であるにも拘らずお集まり戴きまして有難く厚く御禮申上げる次第でございます。殊に傳染病研究所と關係の深い方々におかせられましては．研究所の移管の前の方も．移管後の方も．さういふ區別なしにお揃ひになつて御出席いたゞきまして．このやうに一家團欒の思ひで御一緒に集ふことが出來ますることは何とも言はれない大きな喜びでございます。折角お出でを戴きましたが．時節柄とは申しながら．差上げますものは洵に粗末なものでございまして．甚だ恐縮致して居る次第でございますが．どうかその點はお許しを願ひまして．これから打ち寛いで暫くの時間を吾々と一緒にお過し下さることを切にお願ひ致す次第でございます。毎年の例に依りまして二．三の方にお話を願ひまして．それを速記に止めて置きまして．後の記念に致したいと存じて居りますので．これから田宮教授に指名をお願ひしまして皆様のお話を承りたいと存ずる次第でございます。

(拍手)

田宮猛雄氏

只今所長の御命令に依りまして．私甚だ僭越ではございますが．このテーブルでお話を伺ひます方々のお名前を申上げさして戴きます。

第43回の傳研の記念日でございますが．吾々はこの記念日を迎へます毎に過去を顧み．傳研の輝かしい歴史を顧みまして．又思ひを新たにして今後の吾々の職分に對する新しい力と．さうして覺悟を玆に新たにすることが出來ると存じます。

この機會に當りまして．傳染病研究所の歴史に於きまして非常に功勞のあらせられ．吾々の常に光輝と仰いで居ります諸先生．並に研究の上に於きまして常に緊密な關係を持つて居られます方々のお出でを願ひまして．實はかういふ方々の皆様に悉く短時間でもお話を伺ひたいと存ずるのでありますが．時間が許しませんと存じますから．數人の方々に甚だ失禮ではございますが．私からお願ひ致しまして．2分でも3分でも5分でも結構でございますから．どうぞ吾々現在研究所に職を奉じて居ります者の御激勵．或は又皆様の御感想でも結構でございますから．伺はせて戴きたいと存じます。甚だ失禮な申し方でございますけれども．私の氣の付きます儘．いろは順に御指名を申上げたいと存じますから．お許しを願ひます。

先づ以て吾々の長い間御指導を受けました．さうして傳染病研究所の移管當時から非常な御功績のありました石原先生が今日矍鑠としておゐでになられまして．御出席を得ましたので．幸ひにまのあたり石原先生の御健勝なお姿を拜しまして．吾々はお聲を是非とも伺ひたいと思ひます。殊に時代を異に致します諸君には．古い諸先生の御感想は非常に大きな意味を持

つたお話として．諸君に感銘を與へられることと存じます。それでは どうか石原先生にお願ひ致します。

（拍手）

石原喜久太郎氏

私は只今御紹介を戴いた石原であります。講堂に十年前の寫眞がありますが．あれは此處を退く時の寫眞でありまして．10年經つてこんなに變つたからしてほかの新しいお方にはお分りにならないと思ひます。先刻式場で私の尊敬する宮島博士が．傳染病研究所移管といふことが突發して非常に憤慨をしたといふお話でありました。それで私は田宮君から何か話せといふことで．今の宮島君のお話にヒントを得まして——決して變つたことを言ふのではありませんが．その移管後の事務を吾々が引受けた感想をお話すればその當時の傳染病研究所はどんなものであつたかといふ一端をお分りにならうと思ひます。それで私はその當時大學衞生學教室の職員で助教授でありましたが．文部省から頼まれまして．文部省の學校衞生をやつて居りました。それでその秋學校衞生の講習會を主催しまして．學校の爲に結核といふものは非常に重要なことでありますから．結核研究の權威者である傳染病研究所の北島博士に講師をお願ひしましたら快く引受けて下さつたのであります。それで丁度時期が來ますので．慥か10月の13日と思ひますが．北島博士は內務省衞生局の防疫課長を兼任して居られました。その日に朝時刻に行つて見ましたら．どうもその日の樣子が違ふ。それから北島博士のテーブルの上を見ると普斷と違ふ．何だか片付けてある。おかしいなと思ひましたけれども．丁度講義を始めて貰ふ日が來たから．一遍念を押しに頼みに行つたのです。さうしたら快く約束の通りお引受けになりました。その翌日．私は衞生學教室に出勤しましたら．緒方先生が「ちよつと來い」．緒方先生といふのは私共の恩師でありまして．衞生學教室の主任の教授であります。「ちよつと來い」と言ふので．行つて見たら「今朝官報を見たら．この通り傳染病研究所が文部省の方に移管になつた」と言はれる。成程移管のことが二行程出て居りました。ですから一寸見ては分らないでせうけれども．緒方先生は毎朝自宅に來る官報を見られますから．醫學界の職員の變動なんかは先生がよく官報を見て私にお話になる。「あゝさうですか」それで私は驚いて．昨日衞生局の防疫課に行つた時に．どうも北島君がえらい沈重にして居られたのは多分この爲ぢやなかつたかしらと思つたのであります。それから色々なことがあつたやうですが．又或る日醫學部長の青山先生から．私の教室の先輩の教授で衞生學の擔當者の横手君と石原とちよつと來い。それから．はあ來たなといふことは分つたのですが．それで青山先生の所に行つたら「どうも傳染病研究所の諸君が後を引受けて呉れないので．こつちから行かなくてはいけなくなつたから．君達行け」．さうすると横手君は「あゝさうですか。私は衞生學をやつて居るので傳染病研究所に行つても仕方がないが‥」「それは君が行つても大變役に立つ。又君は北島と親友ぢやないか。行け行け」と言ふのです。それから私は横手君と違つて助教授だから上官の命令を奉ずるのが當り前だから勿論行かねばならぬと思つたのだから「行きます。併し先生にお斷りして置きたいのは．教室には主任があるのだから．一應緒方先生に相談の上で確答を致します。併し行けと言はれゝば必ず行くのだから．まあ行くことにして置いて戴いて宜しいのでせう」さういふやうなことを言つて．2人一緒に歸つて．それから緒方先生が「青山がどう言つたか」．「かうだ。あゝだ。「それは火事場みたいなことになるだらうから．行けと言つたら誰でも行かなければならぬから‥」さういふやうなお話でありました。それから又色々な想ひ出もありますけれども省略します。

辭令を戴いたのは．此處にお出でになります林先生．大學の一番初めの教授（？）と．それから助教授であつた私共でありましたが．それが11月5日の日附でありました。それで慥か其晩に大學に林先生や．長與先生それから横手君や僕や行つたのです。それから二木君の恩師の宮本叔先生もお出でになつた。そこで文部次官の福原さんが所長代理といふ事で．さうして色色打合せがありまして．それから別に何にも祕密な事はなかつたのですけれども．忘れてしまひました。それで尙ほ明日は向ふの諸君に對しても大いに敬意を表さなくてはならないから．皆なフロックコートを着用して行かう。その頃モーニングは流行りませんでした。それで皆林先生初め——青山先生はお出でにならない．福原文部次官がお出でになつた。その前の晩に多分横手君が北島氏に聞いたのだらうと思ふのですが．北里先生は出ないだらうといふお話でした。時間は多分9時と思ひましたが．この土地ですけれども．

元の傳染病研究所にフロックコートを着てやつて來ました。さうしたら北里先生もお出でになつて居りました。それから北里先生が色々事務的なことをお話になつた中で私の印象の深いのは，自分は傳染病研究所を自分の家のやうに心得て居つたから，色々さういふ風にやつて來たといふお話があつた。成程尤もな次第であると思ひました。

それからその時，ほかのことは略しますが，私だけのことを申しますと，その當時の傳染病研究所には內部に部制がありまして，1部とか，2部とか，3部とか，4部あつたといふ話ですが，林先生が第3部長のあとをお引受けになつて，私は林先生についたのです。さうして化學の方を又林先生が一緒にお引受けになりました。私は秦君のあとを引受けまして——物故されました秦佐八郎といふ有名な方であつたのですが，その研究室を私はお引受けすることになりました。同君は又別にペスト研究室を受持つて居られました。私はそのペスト研究室も引受けることになりました。引受けるについては種のことや色々な事がありますが，それは簡單にお引受けしました。それから何か後の爲になることを一つ言つて貰ひたいと私は申しましたが，外からの鼠に氣を付けろといふお話でありました。勿論內部に鼠の植ゑた奴を年中飼つて居りましたから，そのことは能く分つたし，自分も豫ねてそのことは注意して居つたのであります。それで6日と7日と2日掛りで——7日には北里先生はお出でにならなかつたのです。他のお方はまだ事務が殘つてお出でになつたのです。それで丁度その日に——詰りその年の8月4日にヨーロッパ大戰が起つて，日本は英の方に同盟の誼みがあつて，青島の攻略中でありました。7日の午前中に青島が陷落しまして，その時に私は能く覺えて居るのですが，宮島博士が「青島が陷落したから親盃を擧げよう」。さうして宮島博士のお骨折で，ビールやその他の御馳走になつて青島陷落の親盃を擧げました。

それから最も敬服すべきこと，又當然のことでありますが，丁度講習の途中であります。それで半分前の諸君がお育てになつた講習生が居る譯でありまして，それは福原所長が前任者にやはり講習の講師として踏留まつてお貰ひをして，さうして無事にその講習が終つたのであります。その講習終了式を擧行された時に，所長代理の福原文部次官が非常に立派な演說をなさつたのであります。殊に前の諸君が現在の傳染病研究所の爲に講習に對して引續き終了するまで親切に講義をして下さつたといふその心持，それを推察して非常に立派に福原さんがお禮を申されるので，その時——言落しましたけれども私は講習主任も仰付かつて居たので，立つて居つたから皆樣の顏が分つたのでありますが，隨分涙をお流しになつた方もあつて，私も暗に貰ひ泣きをしたのであります。これはずつと後ですが，尻切れみたいなものでありますが，まだ他の方々もありますから，かういふことで卓上のスピーチを御免を蒙りたいと思ひます。（拍手）

田宮氏

有難うございました。先刻いろは順と申しましたが一寸今考へて居ります中に，これを50音順に訂正させて戴きます。何れにしても石原先生に眞ッ先にお願ひすることになりましたが，ウとなりますと內野先生がお居でになられます。內野先生は長い間內務省の防疫課長とせられまして，日本にペスト，天然痘が頻々として侵入して參りまして，一番防疫上の難局時代に防疫課長として防疫行政に御盡瘁になり，又同時に傳染病研究所の技師を兼任せられまして，或は血清檢定に，或はその他の方面に於きまして，何れも吾々を外から御激勵下さいまして，私共に取りましては恩人でございます。どうか內野先生に御感想お願をひします。

內野仙一氏

御指名を戴きまして實は困却して居りますが，今更逃げる譯には參りません。傳染病研究所移管といふことは一つの忽然として起つた天下の大事件であります。併し如何なる事件でも總てみな忽然と起きるのであつて，これは政府，言葉を換へれば國家が必要として認めてやることなので，何と言つても仕樣のない話であります。今の傳染病研究所の官制がどうなつて居らうが，閣議或は國家が一定の國家の方針として變更せられゝば，是亦忽然としてどんなにでもなるものなのであります。併し總て世の中のことは，人間の考へた事よりも，實際上の結果から見れば結局國家の爲になつて居るものではないかと私は思ふのであります。今田宮先生から，非常な指導を仰いだとか，或はお世話になつたとか仰しやいましたけれども，血清檢定委員が置かれました時分に，私もその委員の一人になつたのであります。學問は何もないのでありますが，

唯大學を出たといふだけのことであります。大學を出て何をやつたかといへば，一定の條件に對する處置を敎はつたゞけの話で，世の中には無限大の條件がありますので，思ふ通りのことに行くものではないのであります。それを如何に切拔けるかといふことが詰り問題なのでありますが，大學で學んだことは一つも役に立たないのであります。もう事柄も違つて居るし，總ての事情も違つて居る。併し血清の檢定をやるといふことにつきましても中央衞生會に於て私の恩師の北島博士と共に一大議論を致しましたが，兎に角確かに有效であつて確實なるものであるといふものは國家がこれを檢定するといふことは當り前であります。段々檢定すべき事項はふえるのではないかと思ひますが，曖昧なものを檢定してもそれは仕樣がないのであります。而もその檢定の方法が確實になつて居れば結構でありますが，確實でないものは檢定の方法を決めなければならないのであります。カテゴリーを決めなければならないのであります。これは場合に依ると1年も2年も掛つて，さうして一つの方法を定めて，それをその方面に關する權威者が集まつて決めてやるのでありますが，兎に角自分では餘り確信はなかつたけれども，立派な田宮先生のやうな方もお居でになりましたから，引受けてやつたのであります。ところが無事に濟んで，それからずつと今日に至つて居ります。併しこの方法と雖も萬世不易のものであるかといふことは問題であらうと思ふ。例へば破傷風の毒素が入つて居るのではないかといふので，その毒素を見る爲にモルモットを1匹犧牲に供する。——これは省略して宜からうと思ひますが，血清檢定規則は藥局方にありますから，私はそれを採つて決めましたが，中々手數が掛るのであります。丁度その時に田宮先生は大學を出ておいでになりまして，どういふ方か知らなかつたのであります。非常な學者でありまして，今日は萬人の認める學者でありますが，その當時から學者としての素質を持つて居られるといふことを私は確かに認めて居つたのであります。やはり偉かつたのであります。さうして今日は衞生學を受持つて居られる。これも中々の御苦勞であらうと思ふ。どんなことを講義されて居るか，私も聽きたいと思つて居ります。（笑聲） 講義を聽きに行かれては困る。それはお困りかも知れません。

元來科學といふものは抽象的の概念を取扱ふものでありまして，インダクションとかデダクションとか言ひますけれども，これは學者の付けた名目であります。名目といへば，免疫とか何とかいふことがありますが，今日の免疫學が果して正當のものであるかどうかといふことを疑ふのであります。疑ふよりは否定すべき事項が多いのであります。否定を否定すれば肯定になりますけれども，世の中には何でも聽くと直ぐ肯定をする人があります。何でも聽くと直ぐ否定をする人があります。否定するにも，否定といふことがものをなくなすといふやうな意味の否定ではないのであります。その中にやはり含まれて居るものがある。さうして一歩進んで大いなるものにアウフヘーベンして行かうといふ意味の否定であります。或る一つの方法を研究された。さうすると講義を聽きますと，世の中の色々なことの分らない時代でありますから，直ぐ信じてこれは間違ひないとして使ふ。その場合に否定が使はれて，さうして間違ふといふことになる。初め聽きましたことが大體常識として入つて居りますが，この常識は學問上非常な妨げになる。常識は駄目であります。常識は一つのゲゼッツをきめるといふ事を言つて居りますが，常識といふものは世の中に於てはなければなりませんが，普通の常識は先づ去つた方が宜いと思ひます。これは少し哲學的の問題になりますが，哲學も科學もあつたものではありません。事實を事實とするのであります。敎へられて，それでその通りをやつて行つて，さうしてあゝこれは間違ひないといふので初めてそこで信仰を得て，それから終ひに證明が出來るのでありますが，今日はそれで研究される事柄でも，先づ證明をして，それから後に逆に行くやうな形式になつて居ります。證明は何かといふとデモンストレーションであります。デモンストレーションといふのはストライキや何かに旗を立てゝ行列をやるのもデモンストレーションでありますが，自分達が信ずることは斯くの通り間違ひないといふので所謂多數決主義でやるのがデモンストレーションであります。吾々は初めそれが分らなかつた。山口の高等學校を卒業して來て今日これからデモンストレーションがある。ストライキでもあるのかと思つたら，ちやんと標本が竝べてある。これを見て間違ひないとやる。病理解剖で三田村先生が一定の日にはちやんとデモンストレーションをされるさうであります。デモンストレーションは實驗證明の一つでありますが，こ

れでもやはり習慣といふものがそこに入つて，間違ひないとは言へないのであります。人間が眼で見，口で味ふといふことはどうか知りませんが，耳で聞き，或は觸れたりして，これは間違ひないと信じたことが，案外間違ふことがあります。世の中に常識が非常に間違ひになることがあることは宮島先生が此處に居られますが，私共研究所に居る時分に，蛔蟲でも十二指腸蟲でも皆口から入つて卵を產んで，それから出來るのだといふことになつて居りますから，十二指腸蟲は皮膚から入つて來るといふことはまるきり信じられないけれども，今日ではそれが皮膚から入るといふことは間違ひない事實であります。それから食道の方面から入るものもある。かういふやうに又厄介な條件がふえて來て居るのであります。まさか空氣中から飛んで來るといふことはありませんが，かういふやうに學問といふものはなくては困るが，あつても困ることが隨分あるのであります。私多年防疫課長を致して居りましたけれども，やはり學問も科學的根據がなければ實際の運用は出來ない。その時分に賴りにするのは何かといへば傳染病研究所の證明であります。決定であります。研究所で宜からうといへば，それは宜からうといふので私は盲判を捺したのであります。なかには盲判を捺さなかつたことも隨分あります。それは許して宜からうといふのを2年も引張つたことがあります。それは證明が足りないからであります。自分ではどうしても腑に落ちない事でありますから，國家の官吏として責任上どうしても印判を捺さなかつたこともありますが，大體傳染病研究所にお賴みして，さうして傳染病研究所の方が色々な事を決めて，それなら宜からうといふので蕊らに馬車馬的にこれをやつたのであつて，やはりその通りにやつて，その通りの結果を實際に擧げて來たのでありますが，どうも傳染病研究所は傳染病を研究する所だ，傳染病といへば大概人間を本位にして居る。併し世の中は人間ばかりではないのであります。動物があります。動物の研究もやられて居ります。併しながら動物と植物との限界は一寸ない。細菌は植物だとしてあるし，原蟲の如きものは動物だとしてあるし，その間に見境が付かない。例へばスピロヘータは何か。原蟲だ，或は細菌だと言つても濟む。それから私共が講釋を聽く時分には，病原といふ所にウィールスといふものが擧げられて居る。このウィールスの定義が違ふやうであります。眼には見えない。併しながらそのものがなければ證明が成立ち得ないと信ぜられて居るものがウィールスといふものであります。これは濾過性のものであるとか，超顯微鏡性とか，色々都合の好い言葉が使はれて居りますが，恐らく物があるに違ひない，唯研究所として今やつて居られるだらうと思ふことは，植物にも傳染病がありますし，これも一つの國家がやるべきものであります。例へば米を作るにしましても，どれだけ植物傳染の爲に稻の收穫が減るか，百姓の苦勞がどれだけであるかといふことは申すまでもないのでありまして，傳染病研究所としてはまだまだ擴張すべき餘地があるだらうと思ふ。

今堂々たる戰艦を見るやうな姿で研究所のコンストラクションが出來て居りますが，これは機械的なもので，その成立つ所以は外にあるから，直ぐ碎けます。爆彈が來れば譯なく碎ける。併しその中に存在して居る人的組織といふオルガニゼーションは，これは機械的ではあるまいと思ひます。又機械的であつては大變だと思ひます。所長，部長，或は技師とか，教授とか，助教授とか，それからどういふ名目になつて居るか存じませんけれども，助手とか色々な雇，給仕，その他に至りますまで，隨分な人が居りますが，これが機械的な組織であつたなら駄目であります。やはりそれは有機的なものでなければならない。有機的と機械的の差は何處にあるかといへば，そのもの自體の中にあるのであります。所長としては部下を統一せられて非常に厄介な數字に關する豫算を取られることもありましたりして，隨分御苦勞だらうと思ふ。皆樣に相當な御手當を配られるにしても思ふやうには行かず，不平があつてはならず，併しこれだけの人の組織といふものは有機的であつて，1人でも缺けたら大變であります。動物を扱つて居る者が少し不注意で——印をつけてありませうが，その動物をどうかしてなくなせば，もう百日の研究，心血を注いだ研究がふいになつてしまふのであります。

私はこちらに度々參る積りで居りますが，私はこの研究所に晩年を働いて居られる方には，多年の恩誼に感じて感謝の意を表します。寧ろ感謝といふよりは尊敬の念を拂つて居る者であります。而してお若い方には，私は非常な希望を繫ぎたいのであります。どうせ60にもなり70にもなられますれば光るでありませう。承りますれば43年といふことを申されて居りますが，43といへば人間として最も思慮分別の盛んな

時代、充實した時代であります。長與先生からよく承つて居りますが、人間の腦は四十二三のものが一番重いさうです。重いといつても生きた人間の腦を計る譯には行きません。死んだ人間の腦を測つて、類似的な腦を二つか三つか集めまして、その時分に一番重い腦といふ譯です。重いといつても水が多くてはなりませんが、大體それは一樣性を帶びるものと見て、先づ四十二三が思慮分別のつく時代だとされて居ります。その代り四十二三は白髮が生え、頭も禿げ、齒も拔けて來る、又色々の精力の對象とすべきものが段々衰へて來るといふやうな時代であります。詰り今の研究所は最も思慮分別の出來て居る眞盛りの時代ではないかと思ひます。丁度その時新東亞建設となりまして、今までは1億の人間を相手にして色々なる細菌學的、治療的、豫防的の製劑を造つたのでありますが、かういふものも10倍以上にしなければならない、今の建物では迚も追付けまいと思ひます。今の建物も相當に廣いが、餘裕があるかと申しますと、或はもう手狹ではないかと思ひます。人は要る、人は入れたいけれども、人がない。ないのではない、それは分らないのであります。それは年俸1萬圓も出せば必ず出て來ます。さういふ譯には行きますまいが、又金ばかりでよく行く問題ばかりではありません。この充實したる時代に國家の前途を考へますと、この研究所は10倍にも20倍にも擴張されて宜いのではないかと思ひます、幸ひに土地も空いて居りますし、充分なる餘裕もありますし、直ぐ傍には厚生科學研究所もありまして——これはどんなことを研究されて居るか能く存じませんけれども、厚生利用といふことを研究されて居るものと思ひますが、研究すべき事項は益々ふえるし、又實際にその必要とする事項は無限大にふえて來る。それには色々科學的な解決を與へなければならない。大變なものであります。迚も唯好い加減のその日暮しでは到底足りない時節となつて居りますので、これをお年寄の方にお願ひするのは無理でありますが、これはどうしてもお若い方がお引受け下さらなければならないと思ひます。私共は若いお方に非常に希望を持つて居りますので、43年の記念日に當りまして、お若い方に對して非常にこれからの奮勵努力といふことについてのお願ひを申上げて、さうして茲に招待されまして來賓の一員に加へられました光榮に對して感謝の意を表して、話を結びたいと思ひます。(拍手)お聽き苦しかつたらうと思ひますが、これは入齒の爲めであります。どうぞ惡しからず。(拍手)

田宮氏

只今內野先生から、私共と致しましては久し振に御元氣なお話を伺ふことが出來まして、非常に仕合せに存じます。先生は本日は東京市の西北端にあられますお住居から此處まで態々自轉車に乘つておいでになりました。このお元氣を持ちまして、第44回、45回又50回にも相變らずおいで下さることをお願ひ申上げて置きます。

次には私共の最も尊敬致して居ります川村先生にお願ひ申上げたいと存じますが、川村麟也先生は皆樣御承知の通りに慶應義塾大學の病理學教授をせられて居りまして、先生の長い間の御研究は私が申上げるまでもなく、皆樣御承知の通りであります。曩にはリポイドの研究で學士院賞をお受けになり、又その後恙蟲の御研究におきましては、長い間傳染病研究所とお互ひに切磋琢磨して、さうして恙蟲の問題の解決に大きな力を與へられ、又最近には腦炎の御研究などに於きまして、こちらの三田村所長その他の皆樣と絕えず連繫をとつて學問の爲に終始して居られます。川村麟也先生が幸ひ今日おいで下さいましたので、どうぞ御感想なり御意見なりをお漏し願ひたいと思ひます。

川村麟也氏

御指名に依りまして此處に立ちましたのでありますが、僅かの時間に私の感想を申上げたいと思ひます。只今田宮教授から御懇切なるお言葉を頂戴致しました。これは私の身には當らないのでありまして、私は唯學徒として自分のやるべき道を進んで居るだけであります。古きを溫めて新しきを知るといふ言葉を吾々は常に申して居るのであります。卽ち現在に吾々が生きる爲には過去のことをよく檢討して、その過去の良い所に從つて進むべきものであるといふことだと私は存ずるのであります。隨つて今日のやうな場合に於きまして、昔の狀態を考へるといふことは强ち無駄ではなからうかと思ふのであります。そのことは傳染病研究所の移管問題に關係するのであります。今日傳染病研究所がかくの如く盛大になり、第43回の記念式典を盛大に擧げられて、尙ほその時に緣の下の力持ちになつて研究を援助した所の方々の表彰式までも擧げられたといふやうな目出度いことに遭遇した譯でありますが、かういふやうな時に方りまして昔を考

へるといふ譯でありますが．それは甚だ失禮でありますが．第一私の身に關係することを少し申上げて話を進めて行きたいと思ふのであります。

私は傳染病研究所に居られた故草間滋博士とは親友であつたのであります。草間博士が傳染病研究所の病理部を擔當して研究されて居つたのであります。その草間君が．傳染病研究所が內務省から文部省に移管になつた場合に於て．北里先生及び以下の方々が先生に殉じて辭職されたといふ中に草間君も加はつた1人であるのであります。その辭令の出たのは11月の6日と思はれるのでありますが．ちよつと1箇月ばかり經ちまして．青山胤通先生から．私の所に手紙が參りました。その當時私は新潟醫學專門學校の病理學の敎授をしまして．4年ばかり前に赴任したものであるのであります。青山先生からの手紙を受けまして．私は匆々と上京して先生にお目に掛つたのであります。ところが先生が申されるのには．今度の移管問題は洵に遺憾に思ふ譯であるが．今更如何とも出來ない(笑聲)。就てはその中の所員であるが．草間君には病理學の方を擔當して居つて貰つた。今その席が空いて居るのであるから．君は草間君とは非常に仲が好いのであるけれども．學問のためと思つて草間君の後を繼いで傳染病研究所に來て貰ふことは出來まいかと仰しやられたのであります。私と青山先生との間は特別の關係がある譯ではありませんでしたが．私は學生時分から少し野次性があつたのでありまして．屢く先生の所に談判などに行つたりして叱られたことがよくあつたのでありまして．先生も私を能く知つて居られたのであります。それから又學校に居る時ばかりでなく．卒業した後も．先生は私について何くれとなく心配して下すつた間柄であります。恩師でありますが．その恩師の中でも尙ほ私が尊敬する恩師であつたのであります。その青山先生からさういふやうなお話があつたのであります。私はそれは寢耳に水であつたのでありまして．實は思案にくれたのであります。それは第一に先生が私のやうな詰らない者に對して亟れて下さつた所の御厚意は無下に斷はることも出來ないが．他方私の親友なる草間滋君が決然として起つて北里先生に蹤いて行くといふ事は．これは男として實に立派な行爲であると私は思つたのでありまして．その事につきましては．草間君からも私に手紙があつたことがあつたのでありまして．私は．それは君のやつたことは實に立派だ．盛にやり給へといふやうなことをも言つて居るのであります。さういふ譯でありますから．私は暫く考へまして．先生の御厚意は實に有難いが．今先生の御命令に從ふことは出來ない。といふのは．私は新潟專門學校の敎授に文部省から推薦されて參つたのでありまして．その醫學專門學校は從來大學になるべき所の使命を持つて居るといふことを文部次官から懇々言はれて私は向ふに行つて．それから留學中研鑽を積んで歸つて來たばかりで．まだ2年も經たないのであつて．さういふやうな新しい自分が責任を持つて居る所の學校を棄てゝ去るには忍びません。移管問題云々の是非曲直は私には分らない。でありますから．私はさういふ問題に觸れることを欲しないのでありまして．さういふやうな譯でこの學校の爲に盡さなければならぬといふことで是非御免を蒙りたい．又他日私が年を取りまして上京するやうなことがあつたら．何とか先生御愛顧をして戴きたいと言ひましたら．青山先生は憤然として．何だ．年取つてからなら要らぬ．今の若い所の君が要るのだと言はれましたので．いや．さうでございますか．私はどうもそれより外考がありませんと言つて．青山先生の所を去つたことがあります。勿論その後と雖も青山先生は私に對して別に惡い感情を懷いて居られたやうにも思はれなかつたのであります。さういふやうな經緯があるのであります。それは今日から考へますと．丁度28年昔のことになります。血氣盛んな少壯な私がそれからずつと30年も經つて餘程老骨になつて居るので．只今色々皆さんから．お話のある自分で引退をして席を讓らなければならぬといふやうな位置に到着して居るのでありますが．私としましてもそれから後やはり吾々は研究が大事であるといふことは思つて居る．青山先生のお話をお斷りしたのも研究云々といふことではないのでありまして．男子意氣に感ずるといふことに依つて．私もやはり草間君に殉じた譯であるのであります。

この傳染病研究所は今より28年前に北里先生が創立されまして．約15年ばかり經つて大正3年になつて突然として移管問題が起きて來た譯でありましてそこに於て傳染病研究所は二派に分れ．さうして今の傳染病研究所と北里研究所といふものが出來て來た譯で二重になつた譯であります。併しながら何れも北里先生の御意志に依つて出來たものであるといふこ

とは勿論であるのであります。この傳染病研究所の移管の時即ち11月7日に北里研究所が創立趣意書を出して居るやうな譯でありまして、詰り傳染病研究所と北里研究所と日本に二つの研究所がその時に出來た譯であります。その兩方とも初めの際に於ては非常なる困難を嘗められたであらうといふ事ははたの者からもよく察することが出來るのでありまするが、傳染病研究所に於きましても、餘り慣れない方々が來られて大いに苦勞されたといふことになつた譯であります。青山先生、それから林先生、長與先生、宮川先生それから現在に於ける三田村所長になりまして、今日かくの如き立派な研究所が出來て居りまして、その研究所は外部から輪奐の美を呈して居るばかりでなく內容に於ても實に立派なものであり、而もその研究所から數多の世界的の業績をも出されて居るといふやうな隆盛を極めたことは、これ亦所長諸氏のお力ばかりでなく、研究所所員の方々が一致團結してこの衝に當つて今日の立派な成果を得られたものと私は思ふのでありまして、この點慶賀に堪へない次第であります。

北里研究所に於きましても、創立後北島先生が北里先生の亡くなられた後を繼がれまして、それから尙ほ副所長として宮島先生初め各技師から助手に至るまで、これ亦一致協力をしまして研究に勵んで、今日の基を成して居つた譯であります。

私は草間滋君が亡くなられましてから、こちらに參つたのでありますが、丁度5年前であるのでありまして、草間君の遺志を繼ぐ爲に私も當研究所へ參つたのでありまして、やはり元からの皆樣と一緒になつて今日學問の爲に、又研究所の爲に自分の微力を致して居るやうな譯であります。醫學界に於ては一方には傳染病研究所があり、他方には北里研究所が出來た。詰り二つの研究所が出來た譯でありまして、このことは實際學問の上から申しますと、洵に好い事であると思ふのであります。動もすると人に依つては獨善主義に陷る傾きがあるのでありまして、相手があるといふことが詰り刺戟となつて相切磋琢磨して相共に研究するといふことになる譯でありますから、さういふ意味に於きましては、今日傳染病研究所と相竝んで北里研究所がありますことは、曾ての移管問題のときは私等から見ますと不祥の出來事と考へたのでありますが、今日却つてそれが幸になつたやうな氣がするのでありまして、學問の爲に又日本の醫事衞生の諸方策の爲に如何に大なる貢獻を爲したかといふことを私は思ふのであります。詰り過ちの功名と今日これを見て差支へないと思ふのであります。勿論この間に於て大分色々な研究問題について學界に兩研究所ともに鎬を削つた事が多々あるのでありますが、新聞では盛んにこれをニュースヴァリューとして書き立てたのでありますが、これは新聞社が惡い譯であつて、研究者といふものは決してさうではない。餘りに響きが强過ぎる、要するに興味本位でやつた結果で、餘り大きくしたものと私は信ずるのであります。傳染病研究所に於きましても、北里研究所に於きましても、研究に於ては信を以てやり、さうしてなほ愛を以てやるといふことが昔も今日も變らないことであると思ふのでありまして、別に間違つたことを作つて相手方のものを攻擊するといふやうな卑劣な行爲は嘗じてない、又事實に於てもないと思ふのであります。多少世間の興味を唆つたといふやうなことはありましたが、それも大した問題ではないといふやうに私は思ふのでありまして、かういふやうな工合にしまして、傳染病研究所、北里研究所は相竝んでこれからこの世界の醫學界に相馳驅するといふことになる譯でありますが、只今申しましたやうな工合に、吾々學徒といふものは信を以てやるといふこと、それから愛といふこと、眞と愛の二つの事柄は、吾々常にこれを及ばずながら實行して居るのでありますが、若い諸君等に於ても、その心掛は非常に必要なことであると思ふのであります。日本をして世界の醫學界に於て益々その位を高からしめるといふことには、やはり少壯なる若い諸君の御盡力に俟たなければならぬ事であると思ふのでありまして、さういふ意味に於きまして、若い方々の御奮鬪、それから尙ほ又敬を愛する愛と信といふ二つの德を益々磨かれんことを特にお願ひする次第であります。

目下大東亞戰爭が始まりまして、我が國は連戰連勝赫々たる戰果を擧げて居ります。大東亞共榮圈の建設といふものは日本人の双肩に懸かつて居るのでありまして、かゝる時に於きまして、その一翼としてこの醫事衞生の方面に於きまして吾々が努力するといふことは、今日最も必要なる事であり、その大なる責務は、この傳染病研究に俟つべきものが多いと思ふのであります。皆樣の御健康を切にお祈りする次第であるのであります。ちよつと御挨拶を申上げます。（拍手）

田宮氏

有難うございました。今川村先生にやつて戴きまして(カ)(キ)になりますが．吾々の最も尊敬する先輩の御一人であります城井先生が今日お見え下さいます。城井先生は諸君御承知の通り．移管直後から長い間傳染病研究所の爲に．さうして日本の天然痘に對する種痘の改良に於て．又痘苗の色々な御研究に於きまして．種痘或は天然痘と城井先生のお名前とは．吾々永久に切離すことの出來ない功勞のあつた方でありますが．御退隱後も尙ほ矍鑠として研究に御精進になつて居られますことは私が申上げるまでもありません。幸にお見え下さいますので．どうか城井先生の御元氣な御聲を聽かして戴きたいと思ひます。

城井尙義氏

御指名に依つて立つには立ちましたけれども．大した話題がないのであります。自分の研究して居る事柄を考へる以外に何にも私は物を考へる餘地のある頭を持つてゐないものですから．感想といつても何にもないのでございますが．大分さつきから昔話が出ましたから．私もこの位の考は出るのですが．この頃考へて居つた未來のこと．未來といつても結局希望ですが．それは傳染病研究所に關する希望であります。それを一つ申上げて御參考に資して見たいと思ひます。

これは希望でありますが．そんなことは今更お前が言はなくても皆計畫して居るのだ．併し色んな事情からそこまでまだ行つてゐないと言はるればそれまでゞあつて．さういふことであれば私は結構でこれに過ぎた喜びはないのでありますが．その事柄を具體的に申上げて見たいと思ひます。

今川村博士も仰せられたり通り．我が皇軍は陸といはず海といはず．空といはず赫々たる戰果を發揚して．連戰連勝の戰をしつゝあるのでありますが．これが爲に申すまでもなく世界の國際情勢といふものはすつかり變つてしまつた。最も大きな變化をしたのは何處かと言へば．私はやはり日本とイギリスとオランダ．この國であらうと思ひます。アメリカはこれからどういふ影響を受けますか．これはまだ私共見透しがつかないのでありますが．一番今日大きな影響を及ぼして居るのは．我が日本とイギリスとオランダだらうと思ふのであります。この變化は政治．經濟方面に及ぼす影響は言ふまでもないことでありますが．學問の研究及び教育といふやうな方面にも．色々改革擴充を要求されつゝあるといふ狀況なのであります。我が醫學に於きましても．無論重大な影響を蒙つて居ります。卽ち具體的に申しますると．臺灣に亞熱帶地を一部持つて居つたに過ぎない我が國が．赤道の兩方に亙つて熱帶地方に領土を得及び勢力範圍が擴がつて來た結果．この地方に働きます我が同胞及びその地方に前から住んで居る人々の保健衞生といふものは．全部日本の醫學者の肩に懸かつて來た譯でありますそれについて色々これから御研究も今までとは多少違つた方向に手を伸しになることであらうと思ひますし又その研究も．現にオランダとかイギリスあたりが今までやつて居つた設備を接收しておやりにもなりませうし．或はこちらから研究のエキステンションをお發しになるやうな事もあるであらうと思ひますが．それらのことは．私が此處で申上げるまでもなく．皆樣はもう既に御計畫なすつて居られることであらうと思ひます。ところでこの教育の方面でありますが．どうも今まで我が日本には熱帶地方といふものが直接利害關係がなかつた結果．恐らくは醫學教育中に熱帶地方に於ける衞生といひまするか．小さく言ひますと熱帶病といふやうなものゝ教育は第二義的であつたのではないかと私は想像するのであります。併しこれから我が同胞が彼の地へ行きましてさうして保健を指導して行くのには．土地の醫師その外の科學者なども無論働かせるでありませうが．何といつても指導的地位に立つのは日本人でありませうからして．其處へ行つて働く人の教育を取敢へず急にやらなければならぬ必要に迫つて居るのではないかと思ひます。熱帶地方の衞生のことも一向知らないで押出す譯には行かない。これは他所の國ではどうか知りませんが．フランスではマルセイユに植民地衞生勤務學校といふのがあります。これは專ら植民地へ行つて働く陸海軍の軍醫の補習教育をやる學校でありますが．そんな學校があつて．どうもやはり本國が溫帶地方に在る所で育つた醫師にはどうしてもさういふ特別な教育が必要ではないかといふのでやつて居るやうであります。結局これは陸海軍の方は學校の方針がさういふ風になつて行けば何でもないことでありますが．一般の方にもどうもさういふ特別な補習機關が必要ではないかと思ひます。さらばといつて．今如何に科學技術の奬勵をやつて居つても．やたらに學校を直ぐ建てるといふことはちよつと出來さうもないが．先づ差當

つて私は傳染病研究所に．さういふ所に行つて働らく人を養成する短期の講習をおやりになつたらどうかと思ふのであります。或はさういふことも御計畫になつて居るかも知れません。それは一つ三田村所長さんなり各幹部の方々にお考へを願つたらと思ふのであります。これが一つ．

それからもう一つは．私はこの頃殆ど毎週1回か2回來るのでありまするが．つい先般まで氣が付かなかつたが．所長室の隣りに菌株保存といふものが出來て居ります。あれはどういふのでありますか．イギリスのリスター研究所の中に色々な病原微生物を集めて披露して居るのがあります。あゝいふのをこの際國家の事業として殊に傳染病研究所あたりで一つやつて戴きたいと思ひます。それは第一に私共は今まで二三回あの機關を利用したことがありますが．これからどの程度にあの機關を利用することが出來るかといふことは疑はしい。第二にイギリスも段々落目でありませうから．あゝいふ機關を今まで通り几帳面にやつて行けるかどうかといふ事も多少疑はしいと思ふのであります。のみならず少くとも日本は今日東洋に於ける指導者の位置に立つて居るのでありまするから．特に東洋に多いとか或は必要だといふやうな病原體は全部日本の何處かに集まつて居る．さうしてこれは我が國の醫學者に利用させるのみならず．熱帶病に關する——溫帶その他も無論でありまするが．特に熱帶病に關する病原體は．日本の東京のやういふ所に行つたら何でもあるといふやうな機關を作つてやるといふことが必要ではないかと思ふのであります。是非さういふことをやつて貰ひたい。もう本當に一等國になつた．而も東洋唯一の一等國である日本の責任としてもその位のことはやらなければならぬ時代ではないかと思ふのであります。かういふことを少し考へて居りましたから．その希望を申上げまして．私の責を塞ぎたいと思ひます。（拍手）

田宮氏

どうも有難うございました。なほ最後に小林六造先生が今日お見え下さいました。慶應の醫學部の小林教授は．私が御紹介するまでもなく皆樣御承知の方ですが．吾々の同僚諸君も數に於ては．細菌學．免疫學方面をおやりになつて居られる方が多いのですが．小林先生の多年努力して居られます方面は非常に範圍が大きくて．殆どどの方面の研究を致しますにしても小林先生の文獻を引かなければならぬといふ程大きな足跡を殘されて．なほ今日非常な勢ひで御研究になつて居ります。研究所と致しましては．殊に細菌方面での小林先生の大きな御足跡．吾々が最も關係の深いお方であられまして．又皆樣御承知の通りの御人格．今後の研究に於きましても．非常に小林先生とは緊密に吾々は總ての點に於てお願ひしなければならぬお方であります。御迷惑でございませうが．どうか一つこの機會にお話を伺ひたいと存じます。

小林六造氏

昨日ちよつと國許に參りまして歸りましたら．田宮さんから今日話すやうにといふことで．御叮重なお手紙を戴いたのであります。私がかういふ所で話しますことは恐らく生れて初めてであらうと思ふのであります。一體に話が嫌ひなのでありまして．話することが下手だから嫌ひであります。字が下手だから手紙を書くことが嫌ひといふやうなたちでありますので．實は非常に迷惑に存じて居ります（笑聲）。先程から色々御高說を承つて居りますと．色々お考へになつて居りますし．私も考へることは考へても居りますが．どうも話することが出來ないたちであります。先程28年前と仰しやいましたが．その28年前の1年間傳染病研究所に居りまして．それから28年でありますから．相當年も取つたのであります。年を取つたから少しはどうかといふことになりますが．先程田宮先生から色々御言葉を戴いたのでありますが．これはどうも私には當らないのであります。少しは28年間に知つたでありませうが．私は年々自分の身體が小さくなるやうに考へるのであります。益々ものが分らなくなる。隨て自分の考へたことをお話しようといふ勇氣がなくなるといふやうなことであります。

先般慶德會で腸チフスの委員會がありました。丁度私のお隣りに．先程お見えになつたと思ひましたが．太田正雄教授がお見えになつて．色々小さい言葉で太田さんがお話になりますし．私は泰國に太田さんのお伴をしたことがあつて豫々御親意に願つて居るものでありますから．ちよいちよいお話をしたのであります。腸チフスの話は偽り實は亂かなかつたやうに思つて居りますが．その時に太田さんが癩の研究のお話をなさつた。私大變に興味を持ちまして．一度見せて戴きたいといつてお約束をして．お約束の日に私は參りました。裏門から入つたのでありますが．本館に入り

まして迷つて居りましたところに．どなたですか．小使に案内させて來て貰つたのであります。この大きな建物が——先程内野さんが仰しやつた通りに．建物ばかりはいつでも壞される．中の人間が大事なのだ．洵に意味深長なお言葉を聽いたのでありますが．それから小使さんに連れて行かれて．病院の内を通り抜けて外に出て．次の汚い建物に行つたのであります。私はつきりした記憶はありませんけれども．あれが嘗か私共の28年前に居つた2號本館ではなからうかと思ふのであります。建物だけに於ては今昔の感が實に深かつたのであります。ついさういふことが胸に色々考へられたのでありますが．偖て癩の御研究を見せて戴くことで．すつかりそんなことは忘れてしまつて．新しい解剖を見せて戴き．その素晴しいお仕事に對して實は非常な感銘を受けたのであります。私は癩のことは全く知らないのでありますが．今までさういふ感銘と申しますか．或は非常なる刺戟を受けました時には．やはり皆樣と同樣に何か自分もやらなければならぬ．ぼやぼやしては居られないだといふやうに思つて來て居ります。又今日此處で御招待を受けて．昔を偲んで見ますと．傳染病研究所から北里研究所に行きまして後．この研究所に於ける色々澤山の良い業績が出されまして．その度毎に私共は非常なる刺戟を受けつつ．辛うじてそれに追隨するやうな意氣込で來て居ると私は思つて居るのであります。

どうも私がさうであるかも知れませんが．日本の中で學問の話を私共にして呉れる人が少いやうに私は思ふのであります。これは私の僻目かも知れませんが‥‥。私共は色々刺戟を受けることを非常に喜んで居るのであります。又時々大きな．而も私共を破裂させるやうな刺戟をお與へ下すつても．私は恐らくはそれに堪へるだけの愛を持つて居るのであらうと思ふのであります。刺戟がなくては進歩もありますまいし又愛がなくても進歩はないであらうと思ひます。どうか大きな刺戟を頻繁とお與へ下さつて．殊に若いお方々からお與へ下さることを念願致す次第であります。さうして互ひに刺戟し合ひ．愛し合つて．この日本の一員として．立派な強い日本を形成して行くことが務めではなからうかと私は思ふのであります。

併し私はかういふ所で申すのは相濟まないのでありますが．一寸鄉里に不幸があつて歸つて行きまして途中で私の義兄が癌で三重の方に居るのを見舞つてやらなければならない。私はその義兄に對しても．1年餘りでありますが．到頭手紙を書かなかつた。書けないのであります。それは字が下手だから書けないのぢやなしに．私の氣持を現はすことが不可能であるのであります。どうしても書けない。兎に角今度行つて見ようといふので．參りまして．約6時間ばかり話して來たのであります．熱々癌の憎らしいことを感じたのであります。今まで勿論感じなかつた譯ではないのでありますが．癌に對する憎しみが實に高潮に達したのであります。御承知の通りこれは恐らく吾々の身體から出來た細胞でありませうが．それが勝手振舞のことをして．吾々の他の身體とどうしても歩調を一つにしない。遂に吾々を破滅に陷らす。同時に癌そのものも破滅に陷るのであります。その癌が一體どうして出來るのであらうか。色々な研究はございませうが．その研究のどれが本當かは知りませんけれども．何かの刺戟であらうと見られるやうであります。若し刺戟が癌をつくると致しますならば．さういふ刺戟が私は推定し難いので．どうか日本を偉くする上に於て．指導者となる上に於きまして．自分の中でお互ひに癌を發生せしむるやうな刺戟だけをどけて．他の刺戟ならば如何に強くても宜い．お互ひに刺戟をし合ふことが必要ではないかと思ひます。特に若いお方にお願ひするのであります．私共は．もうあゝいふ奴は相手にならぬと言はれるであらうけれども．私はどちらかといふと．先生方は餘り實は好きでない．上の人は餘り好きでない．と言ひますと叱られるかも知れませんが．學問の話では好きではないのであります。どうしても若い人と話しませんといかぬと思ふのであります。どうかさういふ意味合で話して．私共をこれから益々御鞭撻．御指導下さいまして．或はもう10年位は追從して行けるであらうと思ひますから．この機會にお願ひ致す次第であります。（拍手）

田宮氏

五十音順で參りましたところが．ア行とカ行で相當時間を經過致しまして．尙ほお話を伺ひたい方はまだアカサタナ．それからずつとありますが．際限がございませんので．この邊で會を閉ぢたいと思ひますが．今日御來臨を得ました諸先生並に諸先輩の方々から非常に有益なるお話を伺ふことが出來まして．私共洵に感銘深いものがございます。なほ本日御都合で早くお歸りになりましたが．林先生が先程までお出でにな

つて居られました。林先生は北里先生，青山先生のあとを受けて3代目の傳研の所長であらせられまして大正6年から8年まで研究所の最も難關の時代に所長であらせられたので，御感想も非常に深かつたであらうと存じますが，お話を伺ふことが出來ないでお歸りになりましたことは大變殘念であります。

尙ほ結核の問題につきましても遠藤繁清先生が先程お出でになつたのでありますが，遠藤先生は最も古い研究所員として，傳研の病理學部におゐでになり，只今は結核豫防會の爲に重要な職をお持ちになり，東北帝國大學の熊谷先生と相竝んで，日本の結核豫防撲滅に關する學問上の最高峰として，色々お話を伺へたことゝ存じますが，早くお歸りになりましたことは洵に殘念であります。

今日御列席下さいました諸先生或は諸先輩の方々願くば學界の耆宿として或は先達として吾々を御指導，御鞭撻下され，又將來の研究に於まして御協力下され 或はお互ひに切磋琢磨して學問のため，又學問を通じて國家人類の爲に傳染病研究所がその使命を全うすることの出來まするやうに，この意義のありまする傳研の記念日の機會に一同お願ひ申上げる次第であります。

尙ほ最後に二木先生にお願ひ致しまして，盃を擧げて傳染病研究所の萬歲を三唱致したいと思ひます。

（拍手）

（二木謙三氏の發聲にて萬歲三唱）

（拍手起る）

實驗醫學雜誌

(傳染病研究所研究業績報告)

第二十六卷　第九號　昭和十七年九月二十日發行

原　　著

綠色性連鎖狀球菌及ビ白色葡萄狀球菌ノ海猴睾丸內ニ於ケル保菌ニ就テ

(昭和17年6月11日受付)

東京帝國大學傳染病研究所第一研究部(部長　細谷省吾教授指導)

柳　澤　睦　夫

綠色性連鎖狀球菌ハ一般ヨリ非病原性菌トシテ扱ハレ．人體ノ口腔．咽喉又ハ隨處ノ化膿性病竈ヨリ純培養又ハ混合感染ノ形デ分離サルヽノデアル。然ルニ齒槽疾患ニハ絕エズ棲存シ拔齒ノ如キ外因カラソノ部ヨリ容易ニ循血中ニ入リ一時的ニモセヨ菌血症ヲ起スモノデアリ．又先天性心臟疾患或ハロイマチス性病竈ヲ有スル時ハ本菌ガ是等ノ因子ト相俟ツテ亞急性細菌性心內膜炎ヲ誘發スルコトガ往々アルノデアル。亞急性又ハ慢性細菌性心內膜炎ニ惱ム患者ノ流血又ハ死後ノ局所或ハ血液ヨリ本菌ガ多ク．而モ殆ド純培養ニ檢出サルヽトイフ古今內外ノ幾多ノ文獻ニ徵シテモ該疾患ハ本菌ニ依テ惹キ起サルヽ疾患ノ代表的ノモノデアルコトハ他言ヲ要シナイ。斯ク臨牀的ニ重キヲナス本菌ニ關スル家兎ヲ用ヒテノ實驗的研究(殊ニ實驗的心內膜炎)ハ多數アルニ拘ハラズ．本菌ニ由來スル疾患ニ對スル有效適正ナル治療法殊ニ免疫療法ノ顧ミラレザル狀態ニアルノハ．研究ノ手懸リヲ得ルノガ至難ノタメデアラウカ寔ニ遺憾ト言ハネバナラヌ。

玆ニ於テ私ハ細谷教授指導ノ下ニ同研究室先輩諸氏ノ業績ニ指針ヲ得テ本菌ニ對スル基礎的研究ヲ企圖シ．更ニ彼岸ノ免疫療法ニ到達スベク試ミタノデアル。

卽同研究室高田氏ハ B. novyi ノ芽胞ヲ以テ海猴感染ノ場合．微量ノ葡萄狀球菌毒素(以下葡毒ト略稱ス)ガ良ク海猴體內ニ於テ芽胞ヲ發芽セシメ該動物ヲ感染致死セシムルコトヲ報告シテ居ル。

同研究室故關屋氏ハ「ヂフテリー」感染機序ニ關スル研究ニ於テ微量ノ葡毒ト共ニ微量ノ「ヂフテリー」菌ヲ幼若海猴ノ睾丸實質內ニ注射スル時ハ例外ナク短時日內ニ感染中毒死セシムルコトガ出

26巻.(10号) 1942
885

雜　報

學術集談會

去ル9月17日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ，例年ノ如ク7月ト8月ト休ンダ集談會ヲ再ビ開催シタ。最近交換船淺間丸デ米國カラ歸朝シタ早川中佐ニ，敵國米國ノ近況ニ就テ，今度ノ集談會ノ機會ヲ利用シテ，オ話ヲオ願ヒシタトコロ時局ガラ御多用ノ身デアルニ拘ラズ御快諾サレ，生マ生マシイ現地報告サレ，銃後ノ吾々ニ深イ感銘ヲ與ヘ稗益スルコト大デアツタ。ナホ當日ノ演題ハ次ノヤウデアツタ。

1. 「インフルエンザ」菌ノ有毒性代謝成分ニ就イテ　安藤正一
2. 「ヴイブリオンセプテイク」抗毒素血清ノ製法　宮崎正之助
3. 葡萄狀球菌毒素ノ本態ニ關スル研究(其ノ二)同毒素ニ對スル「パパイン」ノ作用ニ就イテ　細谷省吾　脇滋男　櫻田卓也　西宮恒
4. 最近ニ於ケル「アナフイラキシー」研究(綜說)　中村敬三
5. 戰時下ノ米國視察談　早川清

學友會ヘ寄附

一金	17圓69錢	川喜田愛郎君
〃	40圓16錢	栃木武營君
〃	187圓67錢	蓑茂上君
〃	8圓61錢	福見秀雄君
〃	35圓10錢	市川行正君
〃	8圓88錢	遠藤博君
〃	19圓67錢	原滋君

人事異動報告

發令月日	辭令	官職	氏名
7. 10	研究生繼續ノ件許可ス	研究生	河野重成
7. 15	研究生繼續ノ件許可ス	〃	花岡光男
		〃	小島仁郎
7. 27	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		柳澤睦夫
7. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		林阿安
〃	給五級俸	技手	北川安信
	依願免本官		
8. 1	陞敍高等官三等	助教授	石井信太郎
8. 6	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		三野直子
8. 10	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		大山西一
8. 13	依願免本官	技手	中村孝一
8. 13	依願免本官	技手	羽田幸雄
8. 19	敍勳二等授瑞寶章	教授	三田村篤志郎
8. 31	研究生繼續ノ件許可ス	研究生	唐司藏人
9. 2	福島山形二縣下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月3日 至9月9日	技手	莊保忠三郎
9. 10	長崎縣下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月11日 至9月17日	助教授	石井信太郎
		囑託	福田雅夫
〃	大阪府下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月11日 至9月17日	技手	荒川清二
9. 14	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		遠藤元繁
9. 14	長崎縣下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月14日 至9月22日	技師	鴨脚光增
〃	大阪府下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月14日 至9月16日	技師	矢追秀武
9. 15	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		宮內繁子
〃	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		林幹子
9. 16	福島縣下ヘ出張ヲ命ス　學術上取調ノ爲 自9月17日 至9月20日	技手	莊保忠三郎
9. 21	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		久恒一雄 紀浩一 清川智三郎
9. 30	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		多ケ谷勇 三橋進 水野傳一 金子義德 柳政次

雜　報

動物慰靈祭

去ル11月21日(土)午前11時ヨリ本所ニ於テ職員多數相集リ．日頃研究ノ爲メ犧牲トナツタ物云ハヌ動物ノ慰靈祭ガ嚴肅ニ擧行サレタ。從來ナラバ春秋會主催ノ下ニ春秋2回ニ亘リ旅行ガ行レタノデアルガ．時局カラ旅行ヲ中止シ．ソノ代償トシテ．當日ヲ利日シ職員一同食堂ニ集リ．中食ヲ共ニシ．食後ハ爆擊．落下傘．彌次喜多六十四州唄栗毛．戸田家ノ兄弟ナド松竹映畫ヲ觀賞シ．親善娯樂ノ一時ヲ過シタ。

學術集談會

去ル11月19日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。今日ハカネテ拜聽シタイト念願シテキタ藪田教授ノ植物「ホルモン」ノオ話ヲ漸ク承ルコトガ出來タ。植物「ホルモン」ノ存在ノ證明乃至應用等ノ多方面ニ亘リ．增產ヲ叫バレル時代ニ吾々ヲ裨益スルトコロ大デアツタ。ナホ當日ノ演題ハ次ギノ通リデアツタ。

一．「ドロゼロン」ノ構造ニ就テ　淺野三千三君
　　長谷　純一君

一．志賀赤痢菌菌體外毒素ノ本態ニ關スル研究
　　細谷　省吾君
　　江上不二夫君
　　西　宮　恒君

特別講演

稻馬鹿苗病菌ノ生化學
(植物ヲ徒長セシムル作用アル「ギベレリン」ニ就テ)
藪田貞治郎教授

學友會へ寄附

一金46圓49錢也	中　島　精君
一金167圓21錢也	韓　沁　錫君
一金10圓98錢也	原　　滋君
一金9圓49錢也	柳澤　睦夫君
一金22圓12錢也	細谷　省吾君
一金11圓71錢也	新井三九雄君．宮崎正之助君
一金69圓36錢也	矢追　秀武君
一金6圓32錢也	石井信太郎君

人事異動報告

昭和17.12.9現在

月日	辭令	官職	氏名
11.10	岡山縣下ヘ出張ヲ命ス 學術上取調ノ爲自11月11日 至11月17日七日間	囑託	宮內　繁子
11.11	岡山縣下ヘ出張ヲ命ス 學術上取調ノ爲自11月12日 至11月17日六日間	囑託	黃　當　時
11.19	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		中　島　精
11.30	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		三野　直子